

文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室内 文芸OGネットワーク
 Tel & Fax 03-3237-2681 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei
 代表 高橋 京子 発行：2017.3.25

vol. 26



共立祭参加

学生生活を彩るお祭り、2016年度の共立祭は10月15日(土)・16日(日)の2日間にわたり行われた。

今年度の共立祭は、学園創立130周年を大々的に打ち出し、イベントの中心となる本館ロビーではダンス、合唱や箏曲、二胡、フォークソング、吹奏楽などの音楽演奏、ファッションショーなどが、にぎやかに、華やかに繰り広げられた。

各サークルやゼミの展示は本館を中心に、3～5階、12階、地下1階で行われ、模擬店も玄関前、ラウンジなどのほか、展示の会場内などで行われた。グラウンドではチアリーダー部や競技ダンス部の華麗な演技に、大き

な拍手がおくられていた。

新しく建て替えられた2号館校舎も展示会場になり、ゼミやクラブの被服制作作品が美しく展示されていた。卒業生企画として、例年通り、文芸OGネットワークも展示で参加し、櫻友会は本館11階で物産展を行った。共立祭の2日間はお天気にも恵まれたためでもあろうか、若い人もさることながら、年配の来観者も多く見受けられた。

文芸OGネットワークの展示

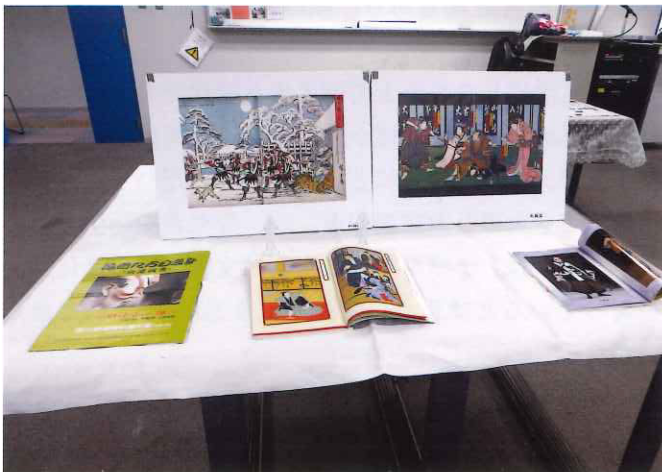
文芸OGネットワークの展示会場は本館12階1202教室。比較的広い会場を確保できたため、ゆったりと展示することができた。

展示の表題は、「『忠臣蔵』展～『仮名手本忠臣蔵』を中心として～」関連のポスターと説明をパネルケースに入れて壁にそって立てかけ、壁際の台にはプログラム類を並べ、別の台には、「文芸OGネットワーク通信」のバックナンバーを置いた。

会場の一部には来観者が座ってくつろげるテーブルを

用意し、茶菓をつまみながらのおしゃべりを楽しむ人の姿も見られた。

会場の中心にはバザーのテーブルをしつらえ、会員の皆様から提供された品々を置いた。品物は、テーブルにのせ切れないほどたくさん集まり、売り上げも2日間で6万3020円となった。これはOGネットの活動資金として活用させていただきます。皆様のご協力に感謝いたします。





『仮名手本忠臣蔵』の展示について

歌舞伎展としては3回目となる今年とりあげた『仮名手本忠臣蔵』は、『義経千本桜』『菅原伝授手習鑑』とともに、文楽、歌舞伎の三大人気演目の一つであるが、とりわけ上演回数が多い作品であり、映画、テレビでも度々とりあげられている。時代物と世話物を巧みに組み合わせた筋立てのうまさによるところが大きいであろうが、題材とした赤穂浪士仇討ち事件が特に日本人の判官贔屓をかきたてた側面も見逃せないだろう。

展示会場となった1202号室はかなり広い講義室であったので、ポスター、プログラムの他に様々な参考資料を展示することができた。「大序から十一段目までのそれぞれのあらすじ」「赤穂浪士事件とは?」「文楽初演時の役割番付表」「初版本（寛永元年）の挿絵」「役者の家系図」「役者の屋号について」などである。

資料室メンバーの中には若い時から歌舞伎に親しんだ方が多く、打てば響くようなやりとりのなかで展示のアイデアが次々と湧いてきたのである。とりわけ歌舞伎役

者の家系図は興味深かった。近代歌舞伎の大名跡である團・菊の系図、江戸の座頭であった猿若勘三郎以来の中村勘三郎家、代表的な女形である中村歌右衛門家など、とても一枚に収めることはできなかったのである。今活躍中の若手役者からその縁戚につながる名優たちをたどっていくと、歌舞伎という芸能が、家制度があったからこそ江戸時代から今日まで続いてきたことがよく分かる。次回の歌舞伎展ではこの家系図はより詳しくなって登場するはずである。

今年から共立祭の展示ちらしを文芸学部の各研究室に配っていただいた。また、近藤瑞男先生の後任として日本演劇を担当されている土田牧子先生は受講学生に配布してくださり、それを見て学生たちが展示を観にきてくれたことはなにより嬉しいことであった。

多田久恵（S 45 院卒）



劇芸術資料室から

皆さん、お気に入りの物の整理をどうしていますか。昨今は断捨離ばやりで、高齢者は終末整理といって、楽しみ、慈しみ続けたものを捨てます。TVのお宝鑑定番組をご存知でしょう。時々、映画のチラシ、各種舞台公演プログラム等に数十万円の値がつきビックリ仰天！

文芸学部劇芸術研究室には歌舞伎、演劇、宝塚等舞台公演のチラシ、ポスター、プログラム等がたくさんあり、OG ネット会員ボランティアによって整理を続けていますが、このアナログ資料に危機が！

昨今の資料のデジタル化によって紙資料はゴミ化でしょうか？ さらにネット百科事典の到来、しかもコピ

ペという便利道具もあり、紙はお役御免なのでしょうか？

今は生活道具をネットで購入する時代です。実際手で触って感触や色合いを確かめ、映画は映画館で、音楽はライブで、本は実際手にとって……とこだわる人々にはチラシ等も大事なお宝情報源。が、今や希少価値、でもダサいかもね。チラシ等の紙資料は文化芸術の進化に一役買っていると思うけど、やはりSNSは便利で楽しいか？

村上智子（S 38 卒）



女性の自立と社会的地位向上をめざす建学精神のもと、今年度、創立130周年を迎えた共立女子学園。学び舎を巣立ったあと、仕事を通し、様々なシーンで共立 spirit を放っているOGを紹介していきます。

file2 佐藤和代

Kazuyo Sato

第2回目にお迎えするのは、佐藤和代さん（S41卒）です。卒業後は、省庁などで働く傍ら、和歌の世界に魅せられ、万葉集を学ばれました。そこから古代史の道へと導かれ、昨年ご自身が代表を務められる研究会主催の講演会「海部氏系図に秘められた卑弥呼」を開催。今回は、学生時代の思いや古代史との出会いについてお伺いしました。

—大学在学中（1962～1966年）は、どんな学生生活を送っていましたか？

自分が何を求めているのか、どう生きていけばよいのか、思い悩んでいました。得意なものを持っているわけでもなく、しっかり勉強したあげくの迷いではなく、このままではどうにもならないという思いを抱えながら悶々としていました。卒論では漱石の「明暗」を取り上げましたが、太刀打ちできるものではありませんでした。担当教授の本林勝夫先生から「下駄を履かせるしかない。立派に卒業したと思うな」と釘を刺される始末で（笑）。

—卒業後の進路はどのようにお考えでしたか？

就職するつもりはありませんでした。それに就職できるとも思っていませんでした。

背が低いこと、成績が悪かったこと、人間関係が不得手なこと、自分自身を把握していなかったこと、就職しなくなかった……というのが理由です。漠然と物書きになりたい、それしかできないと思っていましたが、その力のないこともよくわかっていました。一方で、誰か一人くらい自分を貫ってくれる人がいるだろうと思っていましたが、そういう話もありませんで（笑）。そんな状況の私に共立の先輩が働き口を紹介してくださったので、流れに身を任せることにしました。仕事を通じて、

社会の仕組みを知り、たくさんの出会いもあり、貴重な経験でした。

—ところで佐藤さんは、「古代丹波王国研究会/つくば」を主宰され、昨年秋には講演会を開催されましたが、古代史に興味を持たれたきっかけを聞かせていただけますか。

長い時間と多くの要因が重なって、自然に導かれていったということでしょうか。きっかけは、万葉集でした。万葉集を理解するには当時の歴史を知ることが不可欠でした。歴史を勉強しているうちに、私の周囲に古代人の末裔が何人もいることがわかってきました。関西では珍しいことではありませんが、関東人としては大きな驚きです。その中で、1400年前に＜伊勢に入った＞というご先祖を持つ、友人の山田さんの言葉に惹き付けられました。その言葉以外何も伝わっていませんでした。＜1400年前に伊勢へ。ご実家が足利で500年続いている家柄＞ということだけです。すでに「海部氏系図」を知っていた私は、彼らが＜丹波から伊勢に入った一族＞かもしれないと考え、それを「神宮」という論文にまとめました。私の中の古代史が＜興味＞から＜実感＞へと変わった瞬間です。

—まだまだお聞きしたいことはありますが、最後に共立の後輩へメッセージをお願いします。

私達の時代より遥かに厳しい時代を生きておられますし、いろんな意味で＜ずっと大人＞だと感じています。ただ長い年月先に生きてきたものとして、お贈りできる言葉があるとしたら、こんなことでしょうか？ 迷ったら勉強して！ということ。情報収集から始めて、それらに関する知識を得ることは、自分自身の判断に大きな力を与えてくれます。難しい時代に生きるための一つの知恵とさせていただければ幸せです。

—ありがとうございました。

佐藤さんが、高校、大学時代を過ごした当時の世相

高校1～2年＜1959～1960年＞

60年安保闘争があった。

大学2年＜1964年10月＞

1日、東海道新幹線開通。

10～24日、第18回東京オリンピック開催。

卒業直後＜1966年6月29日＞

ビートルズ来日。

＜1966～1970年頃＞

日本人の好きなものの代表として「巨人・大鵬・卵焼き」という言葉が大流行。

輸出型の第2次高度成長期。イザナギ景気と呼ばれた。

「カー（自動車）・クーラー・カラーテレビ」＜新・三種の神器・3C＞が登場。

＜1973年＞

石油の原油高騰による第1次オイルショック。

ガソリン、灯油はもちろん石油製品の値上がりで、主婦がトイレトペーパーの買い占めに走った。上り坂の経済に陰りが見えた。

Kyoritsu
Spirit!

連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々⑫ —

今回は、1970年前後の時代に学生時代を過ごされた文芸学部劇芸術専攻の17期生 辻村一美さんに書いていただきました。



私は1970年前後に学生時代を過ごしました。最高に刺激的な時代に遭遇できたと感じています。将来の現実的な人生を考えずに、その時一番何が面白いかと、探していられた幸福な時代でした。

ベトナム戦争や学生運動が真っ盛りでしたが、穏やかな女子大に籍を置いていたことで、じっくりと勉強のできる環境にありました。共立女子大に通ったことで、今の私が在るといえるでしょう。

高校の詰め込み教育に反発していた私は、高校で学ばなかったものを求めて、劇芸術コースを選びました。

遠藤慎吾先生の「舞台芸術論」では、ブロードウェイの当時の様子を先生が生き生きと伝えてくださったことが強く印象に残っています。後に生涯続けることになる、地唄舞の師匠の閑崎ひで女先生を紹介してくださったのが遠藤先生です。

また、日本の文化に疎かった私は鳥越文蔵先生の「日本演劇史」の授業によって文字に残らない民俗芸能に目を見開かされました。鳥越先生が主催されていた、民俗芸能探索の研修旅行に早稲田大学の研究者の方や学生さんに混じって、参加させていただきました。佐渡島の人形芝居、

特に「のろま人形」はほのぼのとした素朴さが魅力でした。当時、朝日新聞の劇評を書かれていた、尾崎宏次先生の授業は、同時代の劇の最先端を行くものでした。

現在の私は、地唄舞の公演や指導に加え、多方面の芸術を鑑賞し、感じ、考察するのが最高の生きがいです。

お世話になった先生方には感謝の言葉もございません。

辻村一美 (旧姓：安富) (S 48 卒)

*辻村一美さんは、閑崎ひで佳の名で、1月9日に赤坂区民センターで開催された「世界舞踊祭2017」に出演され、地唄舞「茶音頭」を披露されました。(編集部)

広場

卑弥呼に関する伴とし子先生の講演を聴いて

昨年11月28日、文京シビックホールで、古代丹波歴史研究所所長・伴とし子先生の「海部氏に秘められた卑弥呼」と題する講演が行われ、220人を超える参加者があり、大盛況でした。OG ネット会員の佐藤和代さん(古代丹波王国研究会/つくば 代表)が主催者を務め、会員有志の方々が受付等講演会のお手伝いをしました。

日本古代史で大きな謎とされ、九州説、畿内説が言われている邪馬台国は、現在の丹後地方にあった大丹波王国のことではないか、邪馬台国女王卑弥呼もそこを治めていた海部氏の一族ではないかということ、国宝「海部氏系図」や遺跡、墳墓からの出土品、様々な伝説などの分析を通してお話しになりました。

また、卑弥呼と大和政権との関係も述べられ、大変興味深い内容でした。

川邊 恵 (S 47 卒)

朗読会

昨秋、横浜市大倉山記念館で朗読会があり、望月公恵さん(S 49 卒)が出演なさいました。ずっと朗読サークルで学び、子供達への読み聞かせも経験し、堅実で勤勉、真面目な性格の彼女が今回選んだのは、佐野洋子のパロディー「白雪姫」。ちょっと意外で興味津々。朗読が始まると、呼吸や発声、テンポの良さに聴いていて次第に引き込まれていきました。

朗読は、読み上げるのではなく、聴いている人に向かって語りかけること、一度で聴く人にわかってもらうこと、それには何度も繰り返し練習することが不可欠と聞いたことがあります。

「朗読の途中から話の世界(聴く人と作れる世界)にずっと入っていた」とは彼女の感想です。

日頃の努力の成果を聴かせていただき、朗読の魅力に堪能した秋の素敵な朗読会でした。

稲見和子 (S 49 卒)

掲示板

INFORMATION

来年度の総会、サロン講座の日程、内容につきましては、4月末ごろ、改めて葉書にてご連絡させていただきます。なお、次回のサロン講座は、「古代丹波王国研究会/つくば」代表の佐藤和代さんにお話をさせていただく予定です。

編集後記

EDITOR'S NOTE

会報担当者の役得で、会員の皆様より一足先に、卒業生の皆様から、とても興味深いお話を伺えることができるのは嬉しいかぎりです。OG ネットワークの会員の皆様にも会報を通して卒業生のお話や素晴らしいご活躍をお伝えできれば…と思っています。(O)